

I型糖尿病ってどんな病気？

内科・糖尿病センター 利根 淳仁

国民健康・栄養調査(令和元年)によると、「糖尿病が強く疑われる人」の割合は男性で19.7%、女性で10.8%とされており、糖尿病はまさに「国民病」といえるかもしれません。一方で、糖尿病の大多数を占める2型糖尿病ではなく、「I型糖尿病」という言葉をご存じでしょうか？

I型糖尿病は、主に免疫が関与してすい臓のインスリンを作る細胞(β細胞)を破壊してしまう病気で、小児・若者を中心に幅広い年齢層で発症し、多くの場合は一生、インスリン治療が必要となります。日本での患者数は約10～14万人(人口10万人あたり約100人)とされています。

このような比較的まれな病気では、周囲から病気に対する理解が得られにくく、学校生活や社会生活を送る上で困難に直面することもあります。また、「糖尿病」という言葉そのものがもつネガティブなイメージにより、誤解や偏見、差別を受けることもあります。このような「周囲からの否定的な意味づけ(レッテル貼り)や不当な扱い」をスティグマ(Stigma)といい、その結果、糖尿病をもつ人は社会的な不利益を被ることになります。

今回、「糖尿病をもつ人が暮らしやすい社会に」というテーマで、第12回 I-DreaM岡山(I型糖尿病患者会)が8月27日に当院で開催されました。I-DreaM(ワンドリーム)岡山とは、I型糖尿病患者さん、友人、ご家族、医療従事者が共に集う場として発足した患者会です。今回は岡山県を中心に兵庫県、広島県、香川県、大阪府、愛知県など全国各地から計80名(現地68名、オンライン12名)の方にご参加いただきました。

インスリンポンプなど最新治療の話題に続いて、当院医療ソーシャルワーカーの佐藤より「スティグマとアドボカシー活動(スティグマを解消するために展開される社会的活動)」について講演があり、後半は小グループに分かれてテーマ別のフリートークを行いました。

I型糖尿病の方は孤独感を感じながら治療と向き合うことも多く、同じ悩みを抱える仲間が集まり交流する「ピアサポート」はとても重要な機会です。このような患者会が、糖尿病をもつ方の日々の生活を豊かなものにする助けになれば幸いです。

I-DreaM岡山とは…

インスリン治療を行うI型糖尿病の患者さん、友人、家族、医療従事者が、共に集う場として発足した全員参加型の患者会です。

より良い暮らしを実現できるよう、インスリン治療や日常で抱える悩みを相談したり、患者さん同士、また、患者さんを取り巻く家族・友人・医療関係者との交流や情報交換の場を作る目的で開催しています。



第12回
1-DreaM岡山
1型糖尿病患者会
～糖尿病をもつ人が暮らしやすい社会に～
オンライン+現地開催

2023年 **8月27日(日)**
14:00～17:00
岡山済生会総合病院
4階 さいゆうホール

